

活動名  ホタルの夕べ	団体名	富海をホタルの里にする会
	地域	山口県防府市
	代表者	会長 平田 豊民
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>富海は、海と山に囲まれ、気候も温暖で交通の便もよく住みよいまちですが、一方、近代化の波により道路や河川の改修等で自然の生態系が守れなくなっているのが現状です。近年、人間社会と自然との調和が叫ばれており、自然の美しさを後世に残していこうと、山系から流れる澄んだ水に着目し、ホタルの生息が生態系の指標とされるため「ホタルが飛び交うまちにしよう」とボランティア活動の有志により平成10年に会が立ち上げられた。この会は、発足後、ホタルの生息調査を始め、川の清掃整備、幼虫角育小屋の設置、冷却水をくみ上げるボーリング工事の施行、児童によるカワニナ採取や幼虫の放流等の活動を積み重ねてきました。その成果が現れたのか、ここ数年ホタルが優雅に飛び交う姿が見られるようになり、会の発足10周年を期に、平成20年から「ホタルの夕べ」を開催している。イベントとしては、ホタルウォッチングを前に、こども広場、演劇、飲食コーナーを行い地域コミュニティの触れ合いの場を広げ、まちの活性化の一環としている。</p> <p>◆実施時期：平成21年5月23日(土)17時30分～20時30分 富海老人憩いの家</p> <p>◆参加人数：地区内参加者360名 地区外参加者30名 共催団体役員32名 協賛団体会員28名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 450名</p>		



《第2会ホタルの夕べ》



《カワニナ採集》



《ホタルの幼虫の放流》



《ジャグリングで遊ぶ》

#### ◆実施に伴う効果

富海は小さなまちで、ボランティア「朝日若10人集」が例年夏祭りを行なっていたが、高齢化などの事情で4年前から中止となった。ホタルの夕べを開催する場所は、この神社の近くで、この夏祭りの代りとなったのか、地域の賑やかさや触れ合いの場を取り戻した効果があった。

ホタルの夕べを計画した時は、はじめてのことでもあり、来場者の人数が予測出来ず各種団体の役員だけでも楽しもうと始めた。

結果として、ホタルの夕べには、物珍しさもあったのか300人を超える来場者があり、「楽しかったよ。ホタルがきれいだったよ」の声が返ってきた。

活動が関連する団体等に与えた影響は、まずやれる人で無理の無い範囲でイベントを計画し、そしてやってみよう、つまり実行力がいかに大切かを共通認識し、連帯感を育んだことが大きいと思われる。

次に、どんど焼きの行事は、現在富海中学校・育友会だけで行なわれているが、近年、生徒数も減少しているため、今年から各種ボランティア団体がぜんざいの接待や火の後始末などを協力して地域行事を支えるなど相乗効果が感じられる

#### ◆苦勞した点

ホタルの夕べを毎年開催することになりましたが、ボランティア活動でイベントが出来る地元の団体に限りがあり、外部団体を要請すれば予算面で課題が多かった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

##### (1) ホタル生息地の保護対策について

今年7月の集中豪雨により、ホタル生息地の川底の土砂が流され、ホタルの幼虫が影響を受けたと思われる自然増には、4～5年がかかると予測している。

今後、自然増を期待しながら、その補完対策として幼虫の飼育数の増加が必要となる。

また、餌となるカワニナの増殖や放流を考えなければならない。

次に、ホタル生息地の清掃整備は、欠かせないもので関係者のみならずクリーン作戦として暗広く展開していかなければならない。

##### (2) ホタルの夕べの今後のあり方

今後は、イベントを開催するにあたり、スタッフの募集、また、地域住朗らがイベントに参加することが地域コミュニティの輪を広げることになり要請していく必要がある。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

「第2回ホタルの夕べ」を開催したが、今年は、マツダ財団さんからの協賛を得ることができ、夜のイベントに欠かせない提灯や飲食コーナーにレクレーション用机を購入でき華やかな催しを行なうことができた。多くの団体から支援をいただくことが会の運営の励みになった。